

西照寺道了堂



〔登録年月日〕平成一三年二月二七日  
〔種別〕有形文化財（建造物）  
〔名称〕西照寺道了堂  
〔点数〕一棟  
〔所有者等〕西照寺  
〔所在地等〕高円寺南二―二九―三

## 西照寺道了堂

西照寺は曹洞宗の寺で、明治四三年（一九一〇）に白金（港区）から移転してきた。移転時に大半の建物が新築されたが、道了堂は大正二年（一九一三）に現在地に移築されたものである。

道了堂は、桁行二間、梁間一間、正面を入母屋造、背面を切妻造とした総ケヤキ造の堂宇で、建坪は四坪（一三・二㎡）である。堂の正面は両折れ棧唐戸で、側面の前一間を蓆戸、後一間を板壁とし、堂内を畳敷きとしている。なお、堂の背面に張り出す形で安置されている仏壇は、後補である。屋根は当初檜皮葺であったが、現在は銅板葺きに改められている。

この建物は持仏堂の様式で、本来は堂内部で祈願する建物である。堂内部の紋様の彫刻が変更されている等の改修の跡が見られることから、他所で持仏堂として使われていた堂宇を道了堂としたものと思われる。なお、寺伝では赤羽町（港区）のもと筑後久留米藩有馬家の持仏堂を移築したものと伝えている。

建築年代は棟札が無いため特定はできないが、江戸時代後期と推定される。

各部の仕事も丁寧で彫刻や建築に使われた伎倆も高く、江戸時代後期の持仏堂の形を残した建物である。

### 【文化財所在地】

